

拝啓、貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
弊社トレーラの日常点検時の「留意点」を送付致しますので
ご活用頂きます様お願い申し上げます。

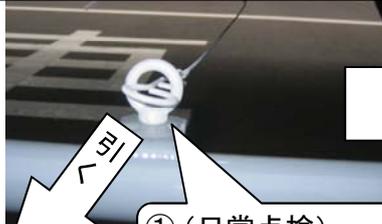
エア・タンク・ドレンの確認(日常点検)

確認部位

※エア・タンクの凝水(ぎょうすい:水蒸気が凝縮(ぎょうしゅく)して出てきた水)

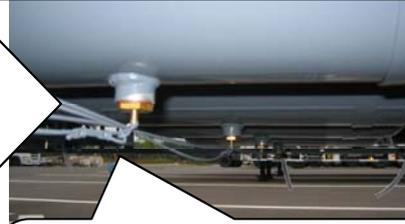
●凝水の確認…法定点検項目(日常、3ヶ月毎、1年毎)

エア・タンクのドレン・ワイヤ
(サイドガード部等)



①(日常点検)
ドレン・ワイヤを引く。

エア・タンクのドレン・バルブ
(エアタンク下部)



②(日常点検)
ドレン・バルブからの凝水を確認し、**油混じりの水ではない**か確認してください。また、**ドレン・バルブ周りに油が付着して居ないか**についても確認してください。

※ エア・タンク内に凝水や、油混じりの凝水が溜まっていると、ブレーキ制御機器が十分に作動せず、機器内での凍結、誤作動、故障等の原因となります。運行前には必ず凝水がない事を確認し、エア・タンク内を常に清浄な状態に保ってください。

※ 車両に搭載されたエア・タンクの個数を確認してください。必ず**全ての**エア・タンクの凝水や、ドレン・バルブ周りの油付着状況を確認してください。

※ エア・タンクの凝水が大量だったり、凝水量が増加傾向にあるような場合には、ブレーキ系統や制御機器内にも凝水が蓄積されていることが考えられます。その際は早急に点検を実施し、分解整備等により凝水の除去を行ってください。特にリレー・バルブ内の凝水は、その作動に大きな悪影響を及ぼします。凍結の防止のため 厳冬期の前にバルブ内部の凝水除去を実施頂くのはもちろんですが、季節に関わりなく凝水の確認除去等を行って頂き、常に水分のない状態を維持頂きますようお願いいたします。

※ エア・タンクの凝水を確認した際、オイル混じりの水が確認された場合や、エア・タンクのドレン・バルブ付近にオイルの付着が確認された場合は、点検時期に満たない場合でも早急に点検を実施してください。リレー・バルブなど制御機器の内部にそのオイルが回っている可能性があります。その成分は、素性が不明であり、固まってバルブ機器の作動の障害になったり、オーリング等のパッキン類の膨潤をひきおしたりする可能性がありますので、オイル成分が確認された場合はバルブ機器の整備を行ってください。

作業性の悪い部位もありますが、
安全に運用して頂く為の点検ですので確実に行ってください。